

誤飲

飲食物でないものを食べたり、飲んだりした場合をいいます。

◆手当◆

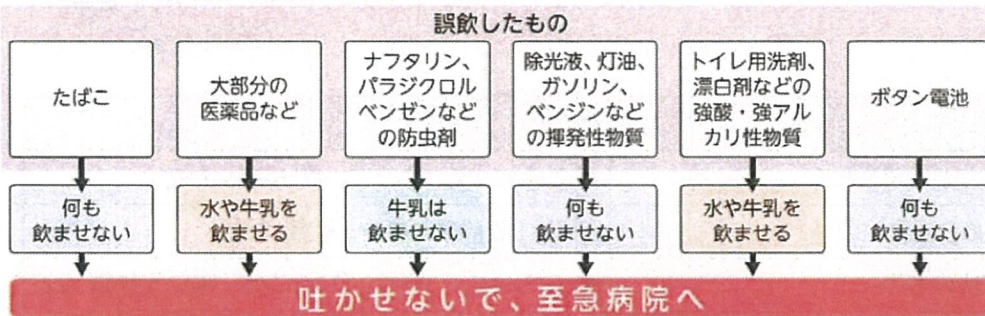
- 119番、医療機関あるいは日本中毒情報センターなどに連絡し、指示を受ける。
- 飲んだものや、吐いたものが残っていれば、医師に見せる。
- 反応がないときは、一次救命処置



誤飲してしまった場合

子どもが何かを誤飲してしまった時は、何を飲んだか、いつ飲んだか、どれだけの量を飲んだか、などを確認することが必要です。誤飲してしまったものの種類によって対応が違うことがあるので注意しましょう。

< 誤飲してしまった時の対応のポイント >



< 病院へ行く際のチェックポイント >

- ①何を飲んだか ②いつ飲んだか ③どれだけの量を飲んだか
 - ④顔色が悪いなど、いつもと違うところはないか ⑤けいれんを起こしていないか
 - ⑥意識ははっきりしているか
- などをチェックし、誤飲したものの容器や袋、説明書などを持っていきましょう。

(出典)「子どもを事故から守る!!事故防止ハンドブック」(消費者庁)

<https://www.city.tokorozawa.saitama.jp/kosodatekyouiku/kosodate/kodomojikoboushi.files/kodomojiko.pdf> (2021年1月に利用)

誤嚥

飲み込もうとしたものが気道に入ってしまう場合をいいます。

気道に異物を詰ませたときの症状

- 突然、激しい咳が出て、もがき苦しみ、声が出せない。
- ゴロゴロ、ヒューヒューなどの音が聞こえる。
- 胸に激しい呼吸運動がみられるにもかかわらず、空気の入りが少ないか、止まっている。
- 顔、首、手などにチアノーゼが出てくる。
- 反応が次第に鈍る。
- 異物が気管支の一部に固定してしまうと、症状が軽くなることがある。

◆手当◆

- 気道異物除去の手順により手当 (乳幼児の一次救命処置)